

第2回推進会議 議事録	
日 時	2017年8月29日(火) 10:00~12:30
場 所	長門市役所 4階 第3委員会室
出席者	<p>【推進会議委員】</p> <p>■大西委員長 ■荒川委員 ■坂倉委員 □岩田委員 ■大谷委員 ■伊藤委員</p> <p>■星野委員(代理:石井氏) ■内田委員 ■小玉委員(代理:藤村氏)</p> <p>【事務局】</p> <p>■木村経済観光部長</p> <p>【デザイン会議委員】</p> <p>■泉委員 ■益尾委員 ■金光委員 ■矢儀委員</p>
■出席 □欠席	
配布資料	<p>1 プロジェクト推進の考え方</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>(2) 提案事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア事業に関する地元意見交換会の実施、主な意見と対応方針 ・コア事業の方針とプロポーザルの考え方の提案 ・長門湯本温泉景観ガイドライン骨子(案) ・長門湯本温泉における建築行為に関する協議プロセス(案) <p>2 恩湯等施設整備・運営事業の考え方(案)</p>
決定・承認事項	<p>1. プロジェクト推進の考え方</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>(2) 提案事項</p> <p>2. 恩湯等施設整備・運営事業の考え方(案)</p>
議事内容	<p>1. 開会</p> <p>■事務局(木村経済観光部長)より推進会議の開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>■大西委員長より開会挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進会議各委員への本日参加のお礼。 ・4月のデザイン会議発足、5月の第1回推進会議から本日まで、長門湯本温泉では様々な取組が行われてきた。 ・恩湯については、泉源調査を行っていく上で必要となる解体作業に先立ち、地元の皆様が恩湯に感謝し、未来につなげていこうと企画されたイベントが盛大に開催され、私も参加したが、温泉街が変わっていく姿と熱意を肌で感じることができた。 ・ワークショップや、9月に実施される社会実験では、地元での活発な議論がなされている。 ・デザイン会議のメンバー、また、河川活用に向けては山口県にもご協力を仰ぎながら、精力的な事業推進がなされていると聞いている。 ・本日は、観光まちづくり事業の進捗について報告を受けた後、事業の核となる恩湯周辺のコア事業(恩湯等施設整備・運営事業)の事業者公募に向けて、コア事業の考え方や方針について提案があり、推進会議で審議し、しっかりと整理していきたい。 <p>■事務局(木村経済観光部長)より推進会議委員と代理出席者の紹介</p> <p>■内田委員挨拶(前回欠席のため)</p> <p>3. 審議・報告事項</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>■デザイン会議泉委員より1(1)についての説明(設計業務について金光デザイン会議委員、泉源調査について長門市が補足)</p>

【質問事項】

大西委員長

- ・「癒されかた改革」の内容を分かりやすく言うかどうか。

泉デザイン会議委員

- ・「癒されかた」というのはただ温泉に来て気持ちが良いだけで終わるものではなく、例えば、萩焼でろくろを回す時の精神集中や、川床でのビジネスミーティングが癒しにつながるということもある。このように何かを突き詰め、自分自身を高めるようなプログラムがあったら、元々の温泉の持つ癒し機能との相乗効果があるのではと考えた。
- ・それを表す言葉について、どのようなフレーズが良いか考え、「癒されかた改革」と名付けた。
- ・従来の癒されかただけではない、新しい癒されかたをここから発信されていくことや、企業と組んで新しいプログラムを開発してビジネスにもつなげることも考えている。

【意見】

大西委員長

- ・社会実験における地元の動きについて荒川委員に意見ををお願いしたい。

荒川委員

- ・社会実験について、地元としては様々な意見があったが、先ずはやってみることが一番大事だと考え、地元との意見交換会を踏まえ理解を得られた。
- ・湯本まちづくり協議会としては主体的に事業を進めていくため、みらい部会を新たにつくった。若い人たちが湯本の未来について思っていることを積極的に進めていきたい。
- ・地元住民の意識も盛り上がってきている。
- ・私としては子供や孫などが帰ってこられる湯本になっていけば良いと考えている。

大西委員長

- ・新しくオープンしたカフェや地域観光プランニングカレッジについて、萩焼とも関連が深いので、坂倉委員に意見ををお願いしたい。

坂倉委員

【カフェについて】

- ・「カフェ&ポタリィ音（音カフェ）」は萩焼が湯本のまちづくりにどう関わっていけるのかを、若い人たちが考えて立ち上げた事業。
- ・まちづくりの一つのモデル事業で、これがうまくいけば新しい事業の呼び水になる。そのためにも成功させなければならない。
- ・湯本のまちづくりが軌道に乗るまでは経営的にも厳しいと思うので、地元の人との協力が無いと続かない。出来るだけ多くの地元の人にカフェを利用してもらいたい。そうすれば観光客の人も入りやすくなる。みんなで宣伝しなければならないと思っている。

【カレッジについて】

- ・萩焼の作り手の間でも、どうやって湯本のまちづくりと連携していくかという話をよくしている。その一つの形としてカフェは出来た。しかし、それ以外で、観光と萩焼の持つ特殊性をマッチさせる方法が思い浮かばない。
- ・どうしても作り手の立場で見えてしまうが、カレッジはいろんな若手の方が来てこの問題について意見交換・発表されるということなので、我々が思いつかなかった発想が出てくるのではないかと楽しみにしている。

大西委員長

- ・音カフェは私も行って、美味しいコーヒーとお菓子を頂いた。萩焼の販売もしているが食器などもあり、和食に合いそうだと感じながら見ていた。
- ・以前、星野代表が料理に合う萩焼を若手の方をお願いしたいという話もあった。料理にあう食器などができると、また違う側面が見えるのではないかと考えている。

坂倉委員

- ・まずはカフェがこういう形で出来たので、萩焼を使って料理を提供するスペース、抹茶を提供するスペースなど、萩焼を売る・見せるだけでなく、使うスペースがあると良い。
- ・例えば恩湯の周りにそういう場所があると良いのではないかな。

大西委員長

- ・河川活用について、藤村氏（小玉委員代理）に意見をお願いしたい。

藤村氏（小玉委員代理）

- ・長門湯本観光まちづくり計画にある、魅力的な温泉街が有する6つの要素のうち、回遊性、絵になる場所、佇む空間の3つについて、県の管理する河川は重要な役割を担っている。
- ・一方で規制というハードルもあるが、河川に期待されている役割が最大限発揮されるように、これまでに2回、河川利用ワーキンググループを開催し、議論してきた。
- ・今回の社会実験で設置される川床や置き座についても、このワーキンググループで安全性についても議論を行い、それを踏まえた内容になっている。
- ・社会実験を通じ、実際に河川利用を楽しんで頂き、今後の本格運用につなげていければと考えている。また、社会実験で出てきた課題についても、河川利用ワーキンググループを通じて対応を検討していきたい。
- ・長門市は、キャンプ地誘致、観光客が急増している元乃隅稲成神社、日露首脳会談、星野リゾートの進出など、今、県内の中で最も追い風が吹いている地域。これも市長のリーダーシップの元で進んでいることだと思う。
- ・県としてはできる限りのお手伝いをしたいと思っている。

大西委員長

- ・協力に心から感謝する。

大西委員長

- ・現在の計画に進捗について、石井氏（星野委員代理）に意見をお願いしたい。

石井氏（星野委員代理）

- ・観光まちづくり計画のベースとなるマスタープランを作成した立場で言うと、かなり良い取組になってきていると感じている
- ・マスタープランでは遊休地をどう活用するかという課題から考え、ハード中心のものとなっていた。このため、遊休地の活用以外では、そぞろ歩きの具体的な内容を示していない部分もあった。
- ・今日話を聞いて「Thanks ONTO」や「湯本提灯」など、全体でのそぞろ歩きを促しているという意味で非常に良いものと捉えている。
- ・特に夜の景観について、昼の景観は色々見えてしまうので変えていくのに時間がかかるが、夜は少し変わるとガラッと雰囲気が変わると思うので社会実験を楽しみにしている。
- ・当社としてはこういう良い活動をより盛り上げていくためのPRをしていきたいと思っている。
- ・川床に関してもマスタープランでは魅力づけの点で重要と考えている。ぜひ実現に向けて進めて頂ければと思っている。

大西委員長

- ・提灯が50個並ぶという話を聞いて、旅館は設置すると思っていたが、民家まで含めて設置するということで、随分景観が映えるのではないかと期待をしている。
- ・荒川委員からも話があったが、地元との連携が出来つつあるように感じている。

大西委員長

- ・地元として、大谷委員か伊藤委員から意見をお願いしたい。

伊藤委員

- ・湯本温泉の川床は長年の夢だったが、二級河川ということもあり中々実現出来なかった。
- ・川床に遊びの要素を付け加えていくことが重要。川床周辺に子供の水遊びのスペースが整備されるようなことなどがあると良いと考えている。
- ・また以前から話しているがB級グルメを開発して川床で振舞うなども良いのではと思う。
- ・そういう活用も「癒されかた改革」になるのではないか。
- ・こういったハード面も非常に大事だと思う。
- ・長門湯本温泉の歴史・文化を踏まえたソフト・ハード計画であってほしい
- ・礼湯は歴史のシンボル、地域でも礼湯を残すという意見が大半と聞いている。
- ・温泉地には歴史がある、その歴史を歪めるようなことであってはまずいと思う。
- ・恩湯・礼湯が近く並んでいても意味がないので離れた場所にして、中身も異なるものによって回遊性を高める工夫も必要。
- ・今は健康志向だと思うので、酵素風呂などの異質なものを考えていく必要がある。

大西委員長

- ・コア事業の考え方については後ほど審議事項で協議する。
- ・河川について、デザイン会議の泉委員は河川組合とも話をしていると聞いているが、今の話を聞かれて何かあれば報告をお願いしたい。

泉デザイン会議委員

- ・河川組合の方と話をさせて頂いて、社会実験には概ね賛成して頂いている。
- ・社会実験で鮎の放流など、子ども向けの体験プログラムも検討して頂いている等、非常に好意的に対応して頂いている。
- ・今回、河川に関して県の方にも河川組合の方にも協力を頂き、非常に進めやすい状況となっている。

大西委員長

- ・報告全体に関して、内田委員に意見をお願いしたい。

内田委員

- ・「癒されかた改革」に皆さんが反応するのは、ハード先行の計画の中でソフトを考えていかなければならないという意識の表れではないかと感じている。
- ・萩焼、川床、夜のライトアップなど、一見バラバラに見えるが土・水・火という自然の要素に直接触れていくこと、更にそれに文化が合わさったものに触れることが、ひとつの癒しなのではと思った。
- ・長門が持つ豊かな自然を活かしたコンセプトが出来るのではないかと感じた。
- ・回遊性に関しては夜がメインに考えているのではないかと感じた。その場合、各旅館の協力がないと観光客が夜が出にくいので、各旅館の協力が必要。
- ・また、昼や夕方などはどうするか。そういうことを考えると、油谷、俵山など域内での周辺観光と合わせていくことが必要だと思う。

大西委員長

- ・報告事項に関しては以上とする。
- ・デザイン会議においては、本日出た意見をもとに検討を進めてもらえればと思う。

(2) 審議事項

■デザイン会議泉委員より1(2)についての説明(景観ガイドラインについて益尾デザイン会議委員より補足)

■事務局(木村経済観光部長)より2についての説明

大西委員長

- ・各委員からご意見を頂きたいが、幾つか論点があるので分けて進めていきたいと思う。
- ・先ず事業の方針として、段階的に事業を進めるという点、またその第一弾として恩湯を中心とした事業を位置づける点について、議論頂ければと思う。

大西委員長

- ・経済学の専門家として民間事業者をパートナーとした場合、段階的に整備をすることについて、内田委員に意見を頂きたい。

内田委員

- ・民間事業者は投資の回収スピードを基本として考える。
- ・少しでも成功したということが見えると投資は増える。
- ・最初から全部を求めると、より良い投資が出来る人たちが集まらなくなってしまい、クオリティの低いものができてしまうリスクが高いので、段階的な整備は妥当だと感じる。
- ・また、温泉事業はサービス業なので、例えば 6 割のクオリティのもので満足してください、ということでは顧客の満足は得られない。段階的であっても、利用者が満足出来ることを確保しながら進めていくことは重要であり、そういう意味でも小さくともきちんと進めることが大切となる。

大西委員長

- ・星野リゾートは当初二つの外湯ということを言われていたが回遊性という点で意見を頂きたい。

石井氏（星野委員代理）

- ・段階的な整備で良いと思う。
- ・外湯自体は、旅館の外にある楽しみの核となる施設という点では非常に重要だと考えている。
- ・最終的には二つあるのは理想だと思っているが、先ずは良いものをつくることが重要。
- ・現状の恩湯は観光客の利用が少ない。
- ・ただ温泉があれば入りに来るということではない。旅館の中にも温泉はあるので、そこに行きたいと思わせないといけない。
- ・もちろん温泉が良いということもあるが、体験としてコンテンツになるということが重要なので、先ず一つしっかりしたものを作ることが重要。理由は3つ。
 - ①段階的整備に関しては、民設での整備であれば事業の幅が広がると思うが、今回は億単位の投資になるため、二つ同時になるとプロポーザルに参加できる人が減るのではないか。
 - ②今のキャパシティに見合ったものを作るべき。先ず恩湯に絞ってしっかりと整備することでキャパシティに見合ったものになる。
 - ③予算の掛け方という点についても、優先順位の高いものから整備するのは良いと思う。

大西委員長

- ・週末に行われた説明会、意見交換会の結果も踏まえ、地元の意見を荒川委員より頂きたい。

荒川委員

- ・コア事業に関しては地域にとっても重要なことなので、7月終わりにまちづくり協議会の臨時総会を開いた。また、8月27日にもう一度臨時総会と湯本・門前・三ノ瀬の住民を交えた意見交換会を開いた。
- ・ただ参加人数が少なく、限定的な意見という面もある。もう少し参加して欲しいと思っている。
- ・コア事業に関して、住民からすると恩湯、礼湯の2つが欲しいと思っているのが現状。
- ・ただし民設民営の観点から言えば進めていくのは専門家の判断になると思うので、住民でその議論を深めるのは難しいと思っており、あくまでも生活者の視点からの意見。
- ・生活者の視点では、重要なのは恩湯・礼湯の歴史だと考えている。
- ・また、建て替えに際して、お風呂のない方もいらっしゃるので、同時に2つ無くなる期間、工事の都合上これが生じるのは避けられないとすれば、その期間を出来るだけ少なくして欲しいと思う。
- ・お風呂がない方への丁寧な対応をお願いしたいと思っている。

大西委員長

- ・今、歴史という話があった。事前にデザイン会議で本日欠席の岩田委員にヒアリングをしていると聞いている。恩湯も礼湯も歴史的に大寧寺との関わりが強い温泉であり、ここで任職の岩田委員のお考えについて、その点も踏まえて報告をお願いしたい。

泉デザイン会議委員

- ・岩田委員には何回か相談したが、歴史をしっかりと見せて欲しいというお考えだった。
- ・住吉神社の境内に2つの泉源があるということは非常に重要で、今の礼湯は泉源から汲み上げていないが、この礼湯の泉源をしっかりと見せるということを考えて欲しいとのことだった。
- ・本来の礼湯は僧侶や殿様、恩湯は庶民という役割分担があったが、それを再現することは出来ないで、ここにそれがあったということや、そのストーリーを体験できるという意味で泉源を見える化して残して欲しいということだった。
- ・2つの湯ということに関しては、成り立つのであれば2つあるのに越したことはないが、赤字になってもしょうがないので、あえて2つあることが必要だとは思わないということだった。
- ・もう一つは今配湯システムで大量に汲み上げて大量に配湯しているが、恩湯はそのシステムとは切り離された独立した泉源であり、その魅力を際立たせると差別化が出来て、旅館の宿泊者も利用するのではないかとということだった。
- ・そういったご意見も踏まえてコア事業の方針を提案した。

大西委員長

- ・大谷委員のご意見を頂きたい。

大谷委員

- ・まちづくり協議会の臨時総会は2回あり、1回目の時（7月末）は恩湯一つで良いという意見が大半であったが、2回目（8月末）の時は二つ欲しいという意見が大半で星野リゾートの完成までに何とか2つ出来ないかということだった。
- ・地元の意見を鑑みると、1棟、2棟どちらでも提案できるような公募の方法はないか。
- ・恩湯一つだと今の湧出量、温度で人数に対応出来ないのではないか。

泉デザイン会議委員

- ・まさにデザイン会議でも同じような議論を行い、恩湯は必須、礼湯は提案次第というのも良いのではないかと意見も出た。
- ・しかし、評価の方法にもよるが両方つくった方が良いという事業者が出た時に、両方が中途半端なものになる可能性があり、今の段階では一番守らなくてはいけない恩湯と恩湯周辺が陳腐なものになってしまうリスクがあるのではないかと議論をした。
- ・その結果、当初は一つか二つかは提案に任せようという議論をしていたが、一つに集中して利益を上げていくことができれば次の可能性もあるが、先に二つ中途半端なものが出来てしまったら地域のためにもならないということで、最初は一つに絞ったほうが良いのではないかとということになった。そこについても議論をしたい。

大谷委員

- ・私としては、少しでも地元の意見を取り入れて欲しいという意見が多かったため、少しでも希望を残すという意味で二つの提案を認める公募にすれば、結果一つとなっても地元でも納得感があるのではと考えていた。

泉デザイン会議委員

- ・我々も色々な方に「何故2つ必要か」と聞いたが、回遊性のためというご意見が多かった。
- ・しかし回遊性は恩湯・礼湯だけでつくるものではなく、それ以外の魅力で作ったほうが良いのではないかと考えている。
- ・また、恩湯・礼湯に対して良い所悪い所などの意見を聞くと、恩湯は泉質や温度や深さなど沢山の話題が出てくる。しかし、礼湯は恩湯が汚い、ぬるいなど恩湯のマイナスを補うために行くという意見が多い。二つ使い分けている方もほとんどいなかった。

- ・皆さんが言われる2つある目的のほとんどが恩湯の質を上げて建て替えることで実現できると考えている。

大西委員長

- ・礼湯を絶対につくらないのではなく段階的に進めていくということ。
- ・そのために、市としても、寿荘跡地までの道の地下には、配湯用の配管などは事前に整備しておき、寿荘跡地で温泉を利用出来るようにしておきたいと思っている。
- ・委員からご指摘の歴史の観点についても、むしろ現状よりも泉源を重視しているという意味で考えに沿った提案にもなっている部分もある。そういったことも踏まえ段階的に進めるということでご了承頂きたいと思うが、いかがか。

(委員から異論無し)

大西委員長

- ・その他、プロポーザルの進め方、委員の人選やリスクへの対応等についてご意見頂きたい。

石井氏（星野委員代理）

- ・設計企業・設計担当者の提案を求める形となっているが、どういうものが出来るか分からないので、シンボルとなる建物としてふさわしい、あるいはそれをつくるにふさわしい事業者かどうか判断するために、過度な負担になるようなものでなくて良いが、一定の提案は求めた方が良いのではないか。
- ・雁木広場の管理に関しても、活用されていることが魅力的な広場として必要だと思うが、これは恩湯の事業者だけではなく、食べ歩きの人なども使用したり、南条踊りなど地域のイベントとして使用したりすることが想定されるので、どう管理するかを事業者募集までにもう一段整理する必要があるのではないか。
- ・また、定期借地期間30年ということであったが、良いものをつくろうという時には費用もかかるので、もう少し長い設定も検討した方が良いのではないかと思う。

事務局（木村経済観光部長）

- ・詳細なものをどこまで求めるかというのはあるが、ある程度デザインが分かるようなものを提出してもらうことは、審査委員の方にも相談して、もう少し詰めていきたいと考えている。
- ・広場管理の具体化についても、モニタリングがしっかりされることが重要だと考えており、デザイン会議メンバーなどにも協力頂きながら、しっかり評価出来るような仕組みをつくりたいと考えている。
- ・定期借地期間30年というところは検討課題にさせて頂きたい。ヒアリングの中では短くして欲しいという意見もあったので、なるべく我々が思い描く事業者が出てもらえるような期間設定を検討したい。

大西委員長

- ・その他プロポーザルに関係するご意見を頂きたい。
- ・スケジュール上、9月、10月には事業者の公募を始めるので、頂いた意見は事務局で検討していきたい。
- ・募集要項等については、審査委員会に推進会議の委員の方にも何人か入って頂いているので、その中でも確認していけるのではないかと考えている。

内田委員

- ・7、8年で小さい修繕、15、20年で大きな修繕が必要になってくる。定期的なメンテナンスが出来ないと質が落ちてくるので、プロポーザルの時に長期計画もしっかり出してもらう必要がある。

大西委員長

- ・他にご意見無いようであれば

①段階的整備は決定

②公募内容については、本日の考え方をベースに詳細は継続検討で進めたいと思う。

- ・また、報告事項も含めた全体として、まず、社会実験について将来の温泉街形成を見据えた初めての取組なので、多くの参加を頂けるように、情報発信については、観光コンベンション協会でもしっかり役割を果たして欲しい。また、実際に泊まれた方がどう感じたかをつかむことが重要なので、旅館の方には外に出て頂くことを促して頂くとともに、その方がどう感じたか反応をつかんで欲しい。そうした意味で、温泉旅館協同組合にもご協力をお願いしたい。
- ・本日、あまり議論が出来なかったものとして景観ガイドラインの骨子があるが、こういったものを定めていきたいと考えている。今回は骨子なので、お読み頂いて様々なご意見を頂きたいと思っている。地元との協働が重要で、ルールを作るだけでなく、作ったルールを守れるようにしていかなければいけないと考えているので、引き続きワークショップや瓦版など、住民や設計者・施工者との意見交換を継続しながら取り組んでほしい。
- ・他に意見がなければ、以上で推進会議を終了する。